

photo: Juichi Itani
Mbeya, Tanzania (2009)

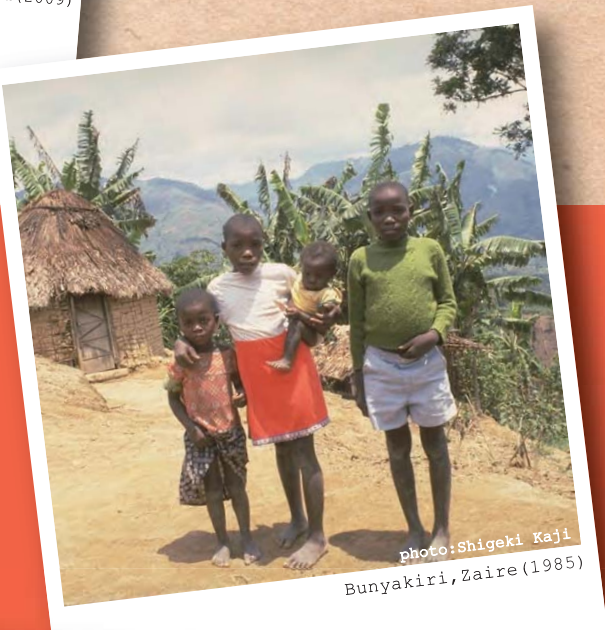


photo: Shigeki Kaji
Bunyakiri, Zaire (1985)

京都大学アフリカ地域研究資料センター公開講座

アフリカ 研究 最前線



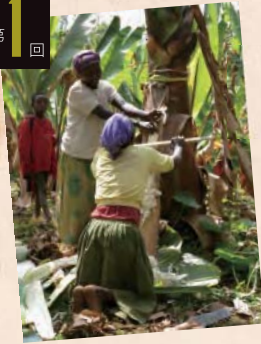
photo: Akie Kyo
Eastern, Zambia (2007)

シリーズ
出会う

京都大学のアフリカ研究者が
最新の研究成果を発信します。



第1回



2012年1月21日 (土)

重田 真義 京都大学アフリカ地域研究資料センター 教授 不思議な植物エンセーテに会う

エチオピアの西南部には1本倒すと家族4人が1ヶ月は食べて暮らせるという作物エンセーテがあります。アフリカ農村の豊かな食文化についてお話しします。

しげた まさよし:1956年京都府生まれ。専門はアフリカ地域研究、人類学、民族植物学。NPO法人アジアとアフリカをつなぐ会の代表としてエチオピアでの地域発展プロジェクトをおこなっている。主な編著に『アフリカ農業の諸問題』(京都大学学術出版会)、『睡眠文化を学ぶ人のために』(世界思想社)など。



第5回

2012年5月19日 (土)

金子 守恵 京都大学大学院人間・環境学研究所 助教 手仕事の世界に出会う

アフリカに暮らすうえでかかすことのできない日用品をつくる人々の生活世界と彼らが創造しつづける技法との出会いを語ります。

かねこ もりえ:1974年北海道生まれ。アフリカのものづくりの実践や継承、生業活動における技法の変化について人類学的な調査研究をすすめている。主な著書に『土器づくりの民族誌』(昭和堂、2011年)『身体資源の構築と共有』(共著、弘文堂、2007年)など。



2012年2月18日 (土)

第2回

近藤 史 京都大学アフリカ地域研究資料センター 助教(2012年2月より) 暮らしを守る女性の知恵に出会う

タンザニアの農村には思いがけない食材があふれていました。半年にわたる乾季をいしく過ごす、女性の知恵についてお話しします。



こんどう ふみ:1977年鳥取県生まれ。神戸大学大学院農学研究科地域連携研究員(篠山フィールドステーション駐在)を経て、2012年2月より京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究資料センター、助教。専門はアフリカ地域研究、農業生態学。NPOアフリック・アフリカ理事。主な著書に『タンザニア南部高地における在来農業の創造的展開と互助労働システム』(松香堂書店、2011年)など。

第6回

2012年6月16日 (土)

佐川 徹 京都大学アフリカ地域研究資料センター 助教 牧畜社会の戦争と平和に出会う

戦争と平和の間を絶えず揺れ動く、東アフリカ牧畜社会のダイナミックな民族間関係の総体に迫ります。



さがわ とおる:1977年東京都生まれ。おもな著作に『暴力と歓待の民族誌—東アフリカ牧畜社会の戦争と平和』(2011年、昭和堂)、『紛争解決—アフリカの経験と展望』(2010年、ミネルヴァ書房、共著)、New Perspectives on Human Security(2010年、Greenleaf、共著)など。

第3回

2012年3月17日 (土)

梶 茂樹 京都大学アフリカ地域研究資料センター 教授 無文字社会の“文字”に出会う

アフリカの伝統社会では、私たちが想像もしないようなものが文字の役割を果たしてきました。無文字社会における「文字」について考えます。

かじ しげき:1951年香川県生まれ。専門はアフリカ地域研究、言語学。主な編著に『アフリカをフィールドワークする』(大修館書店、1993)、『アフリカのこぼれと社会—多言語状況を生きてということ』(三元社、2009、砂野幸稔と共編著)、『事典—世界のこぼれ141』(大修館、2009、中島由美・林徹と共編著)など。



第7回

2012年7月21日 (土)

平野(野元) 美佐 京都大学アフリカ地域研究資料センター 准教授 (2012年4月より) 都市の「商人」に出会う

アフリカの都市には商売上手な人びとがいます。カメルーンの商業民族から、おカネについて考えます。

ひらの (のもと) みさ:1969年大阪府生まれ。天理大学国際学部地域文化学科、准教授(2012年3月まで)を経て、2012年4月より京都大学アフリカ地域研究資料センター、准教授。専門は、文化人類学、都市人類学。主な著作に、『アフリカ都市の民族誌—カメルーンの「商人」バミレケのカネと故郷—』(明石書店、『貨幣の区別と使用—カメルーン都市の同郷会とその役割—』『貨幣と資源』(春日直樹編)弘文堂など。



第4回

2012年4月14日 (土)

大山 修一 京都大学アフリカ地域研究資料センター 准教授 ゴミをまく人びとに出会う

アフリカには荒廃地にゴミをまいて土地を改善し、緑化につとめる人びとがいます。私たちがゴミをまくという行為をためらうことが多いのはなぜでしょうか。生態系の中での人間の位置づけを再考します。



おおやま しゅういち:1971年奈良県生まれ。アフリカ・乾燥疎開林帯の焼畑農耕民の社会を対象に、焼畑農耕の農業生態と環境利用、市場経済化にともなう社会変容に関する研究を進めてきた。主な著作に『ザンビアにおける新土地法の制定とベンバ農村の困窮化』(アフリカ地域研究と農村開発)京都大学学術出版会(掛谷誠・伊谷樹一編)など。

2012年9月15日 (土)

第8回

太田 至 京都大学アフリカ地域研究資料センター 教授 アフリカの紛争と共生の問題に出会う

数多くの紛争が起きているアフリカにも、他者と共生する道を模索し、実現している人びとがいます。こうした営みから私たちは、たくさんのお話を学ぶことができます。



おおた いたる:1953年長野県生まれ。専門はアフリカ地域研究、人類学。主な編著書に、『Displacement Risks in Africa: Refugees, Resettlers and Their Host Population. Kyoto: Kyoto University Press (Gebre Yntisoと共編)、『遊牧民(ノマッド)—アフリカに生きる—』(昭和堂(田中二郎・佐藤俊・菅原和孝と共編)、『続・自然社会の人類学—変貌するアフリカ』アカデミア出版会(田中二郎、掛谷誠、市川光雄と共編)など。

